

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和 7 年 5 月 12 日（月）
訪問先	大阪府 枚方市
出席者	寺岡 まゆみ 委員長、堀江 克己 副委員長、 小島 まさひろ 委員、高橋 伸也 委員、栗山 香代子 委員、 松本 樹影 委員、神子 雅人 委員
随行者	和久井副主幹
調査項目	いくつになっても誰もが主役の介護予防事業「SPRINGひらかた」について
調査内容	<p>枚方市では、高齢者の健康維持・増進及び介護予防事業をより効果的・効率的に進めるため、すでに取組が進んでいる運動以外の趣味性の高いプログラム（コーヒー教室、写真講座、スマホ教室等）で社会参加のきっかけを提供し、今まで市の介護予防事業や社会参加の取組に積極的に参加していない層にアプローチし、介護予防の有用性を訴求するとともに、自主グループへの参加や自主グループ組成のサポートを行い、継続的な社会参加を支援し、地域の既存自主グループや支援組織等と連携し、地域の新たな担い手育成に寄与する仕組みを構築している。枚方市は、人的資源やノウハウ不足の観点から P F S（成果連動型民間委託契約方式）を導入し、初期の行動変容から習慣化による生活の変化を成果指標に設定し令和 4 年度から 5 年度に実施した。6 年度からは、新たな介護予防拠点として「街かど健康ステーション」を設置し、地域の自主的な介護予防活動を支援できる環境を整備しているところであり、高齢社会に対応した多様な支援策を講じている本市の施策に大いに役立てられるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 事業実施に当たりどのような人や機関が携わったのか。 A 内閣府から委託された監査法人、民間事業者であるマーケットサウンディング事業者やイベント実施事業者、会場となる商業施設などである。</p> <p>Q 今まで市の事業に参加していない方への周知やアプローチ方法は。 A ポスターの掲示、L I N E の通知、ロゴの製作及び活用等、また、商業施設等でのイベントや活動 P R により働きかけを行った。</p> <p>Q 参加者からの意見は。 A 「家族との会話が増えた」「生活のペースに抑揚が生まれた」「色んな活動ができ、たくさんの人と知り合うことができた」等の意見があった。</p>

市民福祉常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和 7 年 5 月 13 日（火）
訪問先	大阪府 茨木市
出席者	寺岡 まゆみ 委員長、堀江 克己 副委員長、 小島 まさひろ 委員、高橋 伸也 委員、栗山 香代子 委員、 松本 樹影 委員、神子 雅人 委員
随行者	和久井副主幹
調査項目	茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」（こども支援センター、 屋内こども広場）について
調査内容	<p>「おにクル」は、平成 27 年 12 月に閉鎖した茨木市市民会館の跡地エリアを活用し令和 5 年 11 月にオープンした、ホール、こども支援センター、図書館、市民活動センター、プラネタリウムなど様々な機能を備えた文化・子育て複合施設である。</p> <p>茨木市では、各ライフステージにおいて、切れ目なく包括的に子育てを支援することで、誰もが安心して子育てできる環境づくりを進めており、「おにクル」は子育て支援機能拠点となっている。子育て支援機能の一つとして、天候にかかわらず子どもたちが遊べる屋内こども広場を整備しており、子どもだけでなく大人も一緒に過ごし、自然と会話が生まれるような「まちなかの森」を整備コンセプトとして、木とふれあい、学ぶ「木育」を取り入れている。妊娠・出産・子育てに関する様々な相談にワンストップで対応し、必要なサービスにつなげる体制が整えられており、おにクル内の各機能とも連携しながら切れ目のないサポートを行える大変魅力のある施設であると感じた。</p>
主な質疑	<p>Q 屋内こども広場について、子どもの安全管理は。 A 基本的な安全管理は保護者にお願いしているが、配置しているスタッフも全体の安全に関する見守りを行っている。</p> <p>Q 「木育」について木をテーマにしたワークショップの具体的な内容は。 A 利用者の大半である未就学児とその家族を対象とした木のおもちゃ作りなどを行っている。</p> <p>Q 専門職の人材確保についての取組は。 A 保健師、助産師、栄養士、保育士、心理師等の多様な専門職を配置しており、欠員があれば募集している。</p> <p>Q 今後の課題や展望は。 A 母子保健と児童福祉の機能の連携を強化し、早期支援につなげることである。また、おにクルを拠点として、地域全体での子育て支援の機運を醸成していくことである。</p>